

学 科	鍼灸マッサージ科	学 年	3年生	期 別	通年	科目の実務経歴	有
授業科目名	東洋医学臨床論Ⅰ			担当教員	山田 英史		
授業の方法	講 義			単位数	2単位	時間数	60時間
学修内容	臨床で遭遇すると思われる主な症候に対し、西洋医学的(現代的)な考え方に基づいて適切な施術ができるための知識を習得する						
授業の到達目標	Ⅱ. 医学的知識 5. 東洋療法における主要疾患の症候・治療の概要について身につける						
授業計画	前 期			後 期			
	回	テーマ		回	テーマ		
	1	第1章 総論 第1節 鍼灸臨床		1	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統Ⅰ. 食欲不振Ⅱ. 肥満Ⅲ. やせ(るいそう)		
	2	第1章 総論 第2節 治療穴とその応用 第3節 手技と手法		2	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統Ⅳ. 悪心・嘔吐Ⅶ. 歯痛		
	3	第2章各論 第1節 疼痛Ⅰ. 概説 西洋医学に基づく疼痛Ⅱ. 頭痛		3	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-3 脾系統Ⅴ. 便秘Ⅵ. 下痢		
	4	第2章各論 第1節 疼痛Ⅲ. 顔面痛Ⅳ. 関節痛		4	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-4 肺系統Ⅰ. 咳嗽と喀痰Ⅱ. 呼吸困難Ⅲ. 鼻閉・鼻汁		
	5	第2章各論 第1節 疼痛Ⅴ. 頸肩腕痛		5	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統Ⅰ. 脱毛症Ⅱ. 耳鳴り・難聴		
	6	第2章各論 第1節 疼痛Ⅵ. 上肢痛Ⅶ. 肩関節痛		6	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-5 腎系統Ⅲ. 排尿障害Ⅳ. ED(勃起障害)		
	7	第2章各論 第1節 疼痛Ⅷ. 腰下肢痛		7	中間試験 第2章各論 第3節 全身の症候Ⅰ. 疲労と倦怠		
	8	第2章各論 第1節 疼痛Ⅸ. 腰痛Ⅹ. 下肢痛		8	第2章各論 第3節 全身の症候Ⅱ. 発熱Ⅲ. 冷えⅣ. のぼせ		
	9	中間試験 第2章 各論 第1節 疼痛Ⅺ. 膝関節痛		9	第2章各論 第3節 全身の症候Ⅴ. 浮腫Ⅵ. 掻痒感(痒み)、肌荒れ、発疹		
	10	第2章各論 第1節 疼痛Ⅻ. 胸痛		10	第2章各論 第4節 その他の症候Ⅰ. 顔面麻痺		
	11	第2章各論 第1節 疼痛ⅩⅢ. 腹痛		11	第2章各論 第4節 その他の症候Ⅱ. 歩行異常Ⅲ. 口渇Ⅳ. 出血異常		
	12	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統Ⅰ. 眼精疲労Ⅱ. 気分障害(うつ状態)		12	第2章各論 第5節 女性特有の症候Ⅰ. 概説Ⅱ. 月経異常Ⅲ. 性器出血		
	13	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-1 肝系統Ⅲ. めまい		13	第2章各論 第5節 女性特有の症候Ⅳ. 帯下Ⅴ. 不妊症Ⅵ. つわりⅦ. 骨盤位(つわり)Ⅷ. 乳汁分泌不全		
	14	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統Ⅰ. 動悸・息切れⅡ. 血圧異常		14	第2章各論 第6節 小児特有の症候Ⅰ. 概説Ⅱ. 疳の虫Ⅲ. 夜尿症Ⅳ. 小児喘息(小児気管支喘息)		
	15	第2章各論 第2節 臓腑と関連する症候 2-2 心系統Ⅲ. 睡眠障害		15	第2章各論 第7節 老年特有の症候Ⅰ. 概説Ⅱ. 認知症		
評価基準	評価:90-100点(A評価)、80-89点(B評価)、70-79点(C評価)、60-69点(D評価)、59点以下(F・不可)						
評価方法	中間試験 50% 期末試験 50% の割合で評価します。			実務経歴	臨床経験21年 開業歴11年		
履修上の注意	現代医学的な考え方は臨床医学総論、臨床医学各論で習ったことが必要となるので予習をしっかりと行ってくることを。			授業時間外の学習	授業後の復習をすること。		
使用教材	配布資料 東洋療法学校協会編 新版 東洋医学臨床論 はりきゅう編 東洋療法学校協会編 「経絡経穴概論」 図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ (文光堂) 臨床家のための基礎からわかる病態生理 (医道の日本社)			連絡先	質問または相談があるときは職員室を訪ねてください。(月・水・金曜日のみ)		